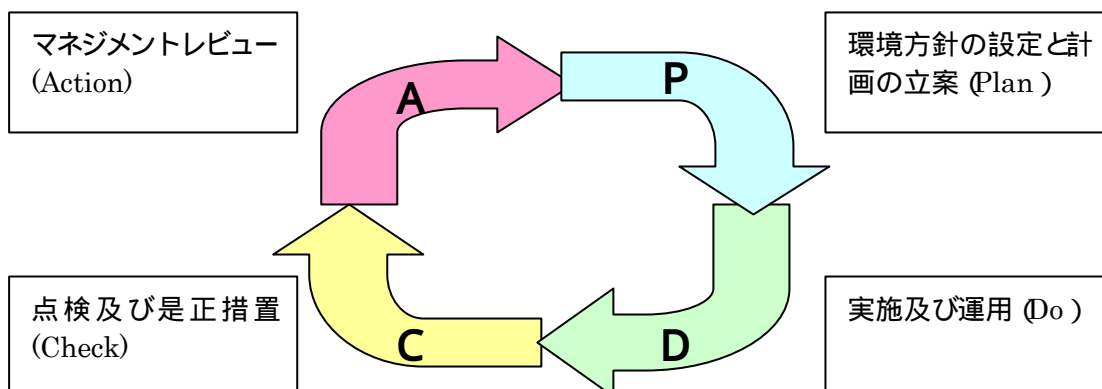


朝日酒造(株) 87 期環境報告

2006 年 11 月 9 日



環境マネジメントシステムの概要



当社の環境マネジメントシステムは、ISO14001 に準拠しています。上記の PDCA サイクルをまわり、環境に配慮した改善を継続して進めています。

環境基本方針

我が社は、その経営目的を「我が社の社会的存在価値を高めること」と定めている。

環境への配慮は、我が社の経営目的実現のための最も基本的かつ有効な手段である。

以下にこの基本方針達成のための行動指針を示す。

行動指針

1. 良い酒を造り続けるために、財団法人「にし水と緑の会」の活動を支援し、地域の環境保全活動の先導的役割を果たす。
2. 全社員の環境意識を高揚させ、ホテルの保護活動やもみじの植栽活動、行動委員会活動など、地域の環境保全活動への自主的参加を支援する。
3. 廃棄物の減量、リサイクルの推進、省エネルギー・省資源、有害物質等の流出防止により、環境汚染の予防と環境負荷の低減に努める。
4. 環境目的及び目標を設定し、環境マネジメントシステムの運用及び見直しにより、環境保全の質の継続的改善を図る。
5. 法律・規制・協定を遵守するとともに、自主管理基準を設定し、地域に根差した企業としての社会的責任を果たす。

環境目的・目標

環境目的と目標を定めて、達成に向けて全社で活動をしています。

環境目的及び環境目標

環境目的 (85 - 87 期)	環境目標 (87 期)
1. 財団法人「にし水と緑の会」の活動を積極的に支援する	(1) 財団法人「にし水と緑の会」の支援
2. 工場及び市場で発生する廃棄物の減量を図る	(1) リユースびん市場流通の推進 (2) グリーン購入・リサイクル品購入の推進
3. 地球への温暖化ガス排出量を削減する	(1) CO ₂ 排出量 86 期比原単位 1%削減 原単位 : CO ₂ 排出量 (t) / 売上容量 (kl)

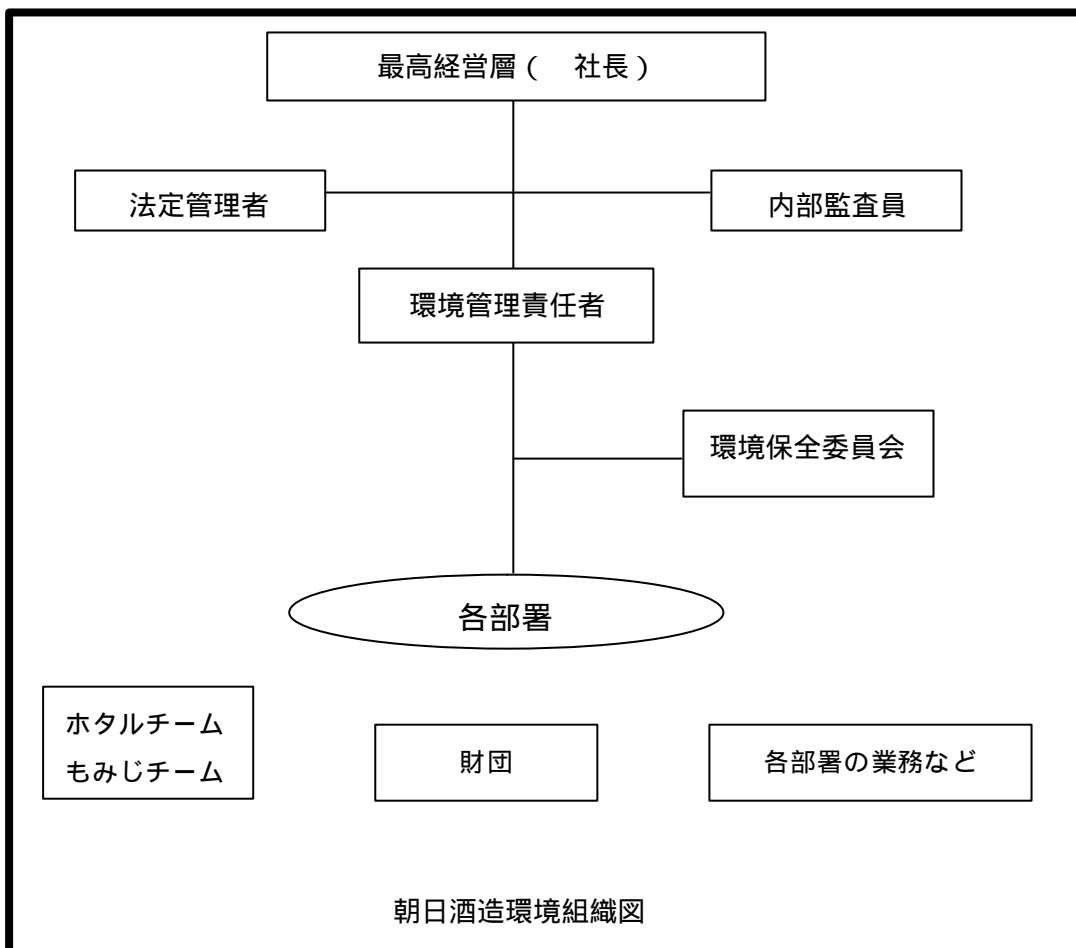
注 85 期 2003 年 10 月から 2004 年 9 月まで

86 期 2004 年 10 月から 2005 年 9 月まで

87 期 2005 年 10 月から 2006 年 9 月まで

体制及び責任

当社は下図の体制で活動を進めています。それぞれの役割・権限は明確になっています。



最高経営層 (社長) 環境マネジメントシステムの実施および管理に必要な人的資源、設備・施設、資金、技術・手段を用意する。

法定管理者 :当社が法的に要求される管理者 (公害防止管理者・危険物取扱者等)

内部監査員 :当社の環境マネジメントシステムの内部監査を行う

環境管理責任者 :他の責任と独立して以下の権限を与える。

環境マネジメントシステムを構築し、実施し、維持することを確実にすること

環境マネジメントシステムの実績を社長に報告し、システム見直し及び改善のための助言をすること

環境保全委員会 環境管理責任者を委員長とし、各部署代表により構成される。活動内容は
著しい環境側面の特定
全社環境目的・目標の設定及び見直し(素案の作成)
全社環境マネジメントプログラムの作成・改訂と実績のまとめ

各部 課長 :各部及び各課の環境目的・目標の設定。各部及び各課の環境マネジメント
プログラムの総括管理を行う。

もみじチーム :当社を中心として地元である越路地域と共に取り組んでいる、環境保護を核とし
ホタルチーム た社会貢献活動。

もみじチームは地域がもみじあふれる環境になることを目指し苗木の育成等の
活動する(もみじは旧越路町の町の木)。

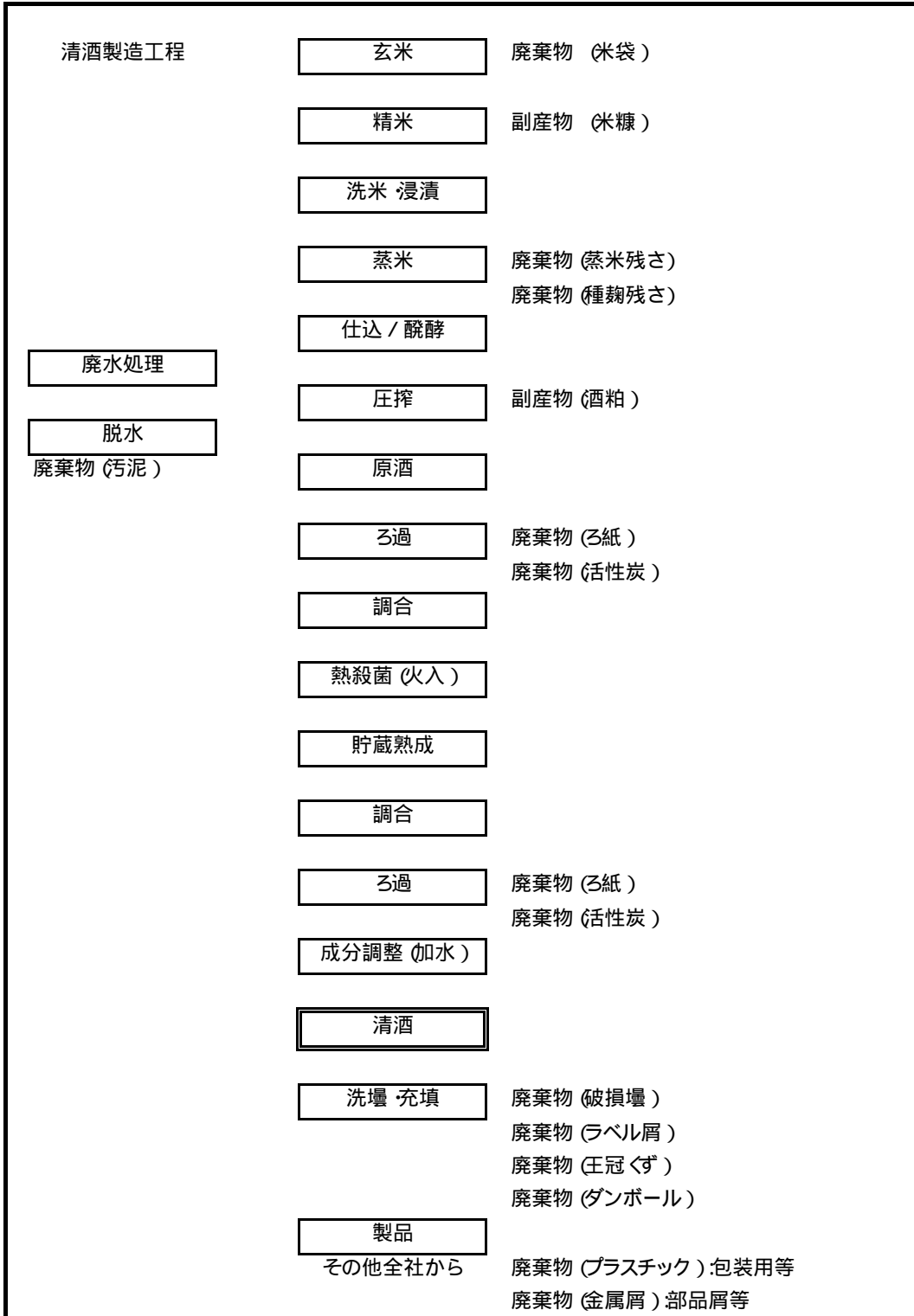
ホタルチームは自然環境の指標昆虫であるホタルの保護や生息しやすい環境
づくりを地元の方々と協力しながら進める。

財団 :正式名称 財団法人 こしじ水と緑の会。自ら自然環境の保全に関する活動を行
うことにより、豊かな自然環境の保全を図り、現在と将来の世代のために快
適な自然環境を提供することを目的とする。主な活動は

自然環境を守るため、その保全活動や研究活動等に対して助成を行う。
自然環境の保全に関する活動を行う。

各活動の環境への影響

清酒ができるまでに、多くの廃棄物が出ていることがわかります。



廃棄物 (紙類): コピー用紙等
廃棄物 (新聞 雑誌)

コミュニケーション

環境情報 環境目標など環境に関する情報は、以下の方法で公開しています。

社内のコミュニケーション

環境に関する事柄は、各階層 (役員 部長 課長) での会議及び各部署で話し合われています。これらの情報は朝礼 終礼、社内 LAN 及び社内報などを通じて全社に伝達するようにしています。また、社長以下全社員に環境方針と各自の目標が記入できるカードを配布することで、環境に対する意識の向上に努めています。さらに提案制度等を利用し、環境に関する情報を社員から積極的に取り上げるようにしています。

外部への公開

お客様や取引業者への情報の公開については、以下のようになっています。

- 社内にある掲示板を利用した環境方針等の公開
- ホームページによる公開
- 社外報 (久保田情報 会報越州等) による伝達
- マスコミへのリリース (ラジオ、新聞等)

外部からの環境に関する苦情や問い合わせ

2006年9月現在までありません。

The screenshot shows the website for Asahi Shuzo. The top navigation bar includes links for '朝日酒造株式会社', 'サイトマップ', '会社案内', '採用情報', 'お問い合わせ', '個人情報保護方針', and '電子公告'. Below this, there are more links for '表紙', 'あさひ便り', '酒造りの条件', '商品のご案内', and '社会活動'. A search bar contains 'esshu.jp' and the text '自分好みの"しあわせ"時間'. The main content area is titled '会社案内' and has a sub-section for '環境活動'. Under '環境活動', there is a heading for 'ISO14001' and a text box stating: '朝日酒造株式会社は、環境に関する国際規格ISO 14001 (2004年版)を認証取得いたしました。' Below this, a green box lists details: '登録番号: JQA-EM1789', '登録日: 2001-09-21 更新日: 2006-05-14', '住所: 〒949-5494 新潟県長岡市朝日880-1', 'TEL: 0258-92-3181', 'FAX: 0258-92-4875', and '該当製品または、サービスの範囲: 清酒の製造及び販売'. At the bottom, there is a paragraph: '清酒は、田圃と太陽に育まれた米と水を原料として醸される産物です。朝日酒造はこれまでもホタルの保護やもみじの植樹など、越路の自然を守る取組みの先頭に立ってきました。また、企業活動を行う上で発生する様々な環境への負荷を低減する取組みも行っていきます。'

環境マネジメントシステム監査・ISO審査

内部監査

当社では社外の「内部環境監査員養成コース」(品質保証総合研究所またはエムエスオフィス(長岡市))を受講し、修了試験で合格した者が社長より任命され、内部環境監査員として登録されます。2006年9月現在、16名が登録されています。

監査は「内部監査チェックリスト」に基づいて行うこととし、87期(2005年10月から2006年9月まで)は2006年3月に1回実施しました。

外部監査

2001年9月、財団法人日本品質保証機構による本審査が行われました。審査員2名による2日間の審査の結果、ISO14001規格の要求事項に適合し、環境マネジメントシステムが機能していると判断され、2001年9月21日に認証取得ができました。

審査登録内容

規格	ISO14001:1996 ・ JIS Q 14001:1996
審査登録機関	財団法人 日本品質保証機構 (JQA)
登録日	2001年9月21日
更新日	2007年9月20日
登録番号	JQA-EM1789
登録活動範囲	清酒の製造及び販売

定期審査

2006年8月28~30日、財団法人 日本品質保証機構による定期審査が行われました。審査員1名による審査の結果、ISO14001規格に基づく環境マネジメントシステムが維持管理されていると判定され、改善指摘事項はありませんでした。

審査ではストロングポイントとして財団・もみじ・ホテルチーム等の自然保護活動、新社屋 新製品工場の環境配慮の投資が挙げられました。

改善の機会としてはマネジメントシステムに関して5項目のアドバイスがありましたので、より実効あるシステムとして磨き上げるために、真摯に受け止め改善を図ります。

87 期環境目的・目標の実施状況について

87 期（2005 年 10 月から 2006 年 9 月まで）

環境目的

1. 財団法人『にし水と緑の会』の活動を積極的に支援する。

環境目標

(1) 財団法人『にし水と緑の会』の支援

自然環境保護を目的とし、2001 年 6 月 5 日に設立された財団法人『にし水と緑の会』は現在、**広報部広報 2 課**が事務局となって活動をしています。

財団の主な事業として、

- ・水と緑の自然環境の保全活動及び調査研究等に対する助成
- ・水と緑の自然環境に関する調査研究及び普及啓発
- ・水と緑の自然環境を大切にすることを育む環境教育
- ・その他、自然保持 改善の目的を達するために必要な事業 等があります。

現在、社員全員が財団に加入し寄付を行っています。また社内イベントスタッフが財団主催のイベント等のお手伝いをしています。



左上 :自然保護助成基金選考結果報告会
左下 :財団独自の活動 朝日城の森 整備
下 :子ども樹木博士学校 風景



環境目的

2. 工場及び市場で発生する廃棄物の減量を図る。

環境目標

(1)リユースびん市場流通の推進 【目標値 :12 万本】

87 期実績 :74,484 本の回収 R ビンを使用しました (目標対比 62% 未達成)

当社では 1999 年より720m ビン (4 合ビン)について、日本リターナブルびん普及協会より規格化されたビンを使用しています。このビンを使用することにより、今まで再利用されなかった 720 m ビンを一部再利用しています。

86 期が約 11 万本の実績でしたので、87 期の目標を年間 12 万本 (1 万本 / 月)に設定し活動をしてまいりました。近年は R ビンの回収量も増加してきましたが、他社の使用も増えています。また 4 月の新製品工場への切替えにより、社内及び社外において入荷調整を行ったことから入荷しない期間があり、年間の入荷は目標より少なくなりました。今後は随時入荷する予定となっています。

このビンには、識別のためにマークがついています。当社は営業部を中心に販売店や消費者の方にも認識を広げていくため、営業活動及び会報等に情報を掲載し啓蒙活動を行っています。当社のみではなく業界全体で使用されることによって、リユースびんの流通量が増加すること望んでいます。

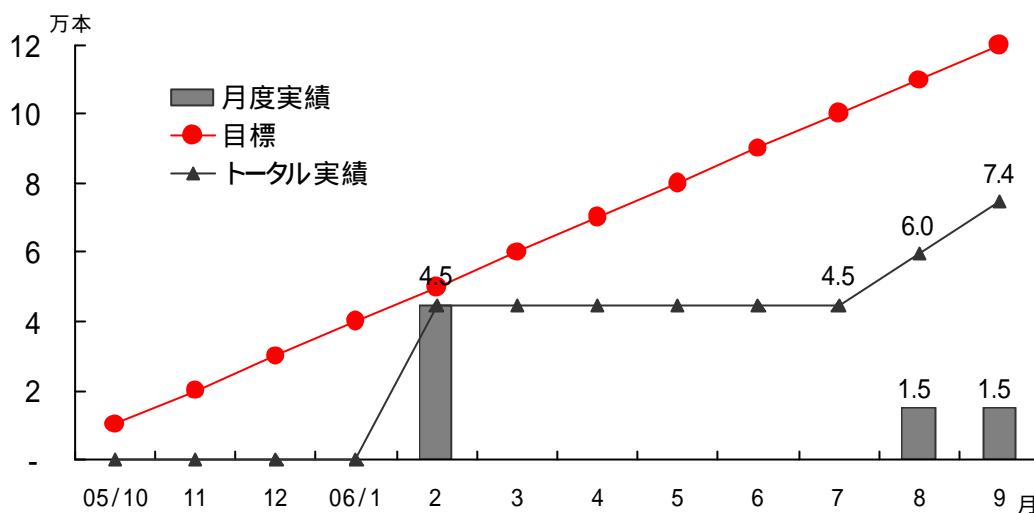
2006 年 9 月現在

茶 緑ビンを使用した商品の一部にリユースびんを使用しています。

【銘柄一覧】 アサヒヤマ 720、越乃かぎろひ百寿 千寿、壱 弍 参乃越州、
久保田百寿 千寿 紅寿、ゆく年くる年、蔵人浪漫 (朝日商事 PB)

当社使用の R ビンには、肩の部分にマークが入っています。





87期 720mlリユースびん入荷量

②)グリーン購入の推進 【目標:主要品目をグリーン購入に切り替える】

87期実績:主要事務用品 40品目でグリーン購入対象品へ切替え(目標達成)

当社での事務用品の購入に対して、グリーン購入を推進していく活動です。86期で調査したグリーン購入対象の40品目について切替を実施しました。来期は品目の増加を目標として活動を進めていきます。

その他

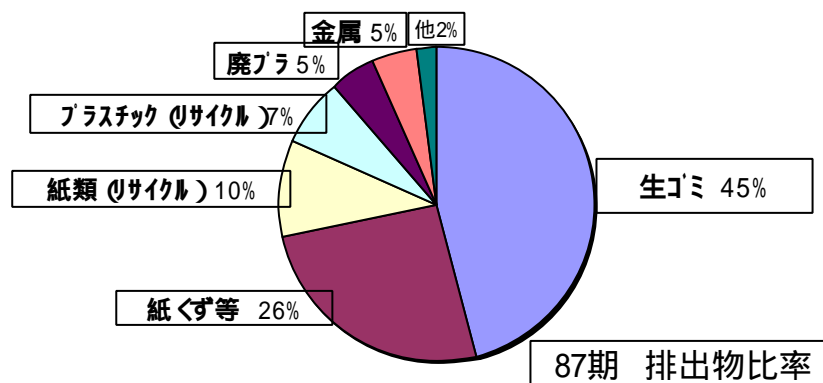
1)生ゴミの減量

清酒の製造工程では、蒸米の残さを中心とした生ゴミが一番多く発生します。製造部では、その減量化に取り組んでいます。

・原料が生ゴミにならないような工夫(製造ライン、装置の改善や作業手順の見直し等)

・発生した生ゴミの減量化(脱水等)

その他の部署で発生される生ゴミも、各部署で減量化の取り組みをしています。今後も、継続し実績を積み重ねていきます。



2) 廃棄プラスチックの分別、再資源化

当社では各部署において、プラスチック素材の廃棄物が排出されています。その中にはリサイクル素材として使用できるものも多く含まれていました。しかし以前は回収するルートが無くほとんどを産業廃棄物として処分をしていました。

2001年5月に回収ルートを構築し、今までほとんど廃棄物としていたものを「リサイクルできるもの(包装系とボトル系)」と「リサイクルできないもの(産業廃棄物)」に分別し、再資源化の徹底を図っています。



環境目的

3. 地球への温暖化ガス排出量を削減する

環境目標

- (1) CO₂ 排出量削減 【目標値 86期比原単位 1%削減 (CO₂ 排出量[t] / 売上容量[kl])】
87期実績 原単位 13.8%増 (目標未達成)

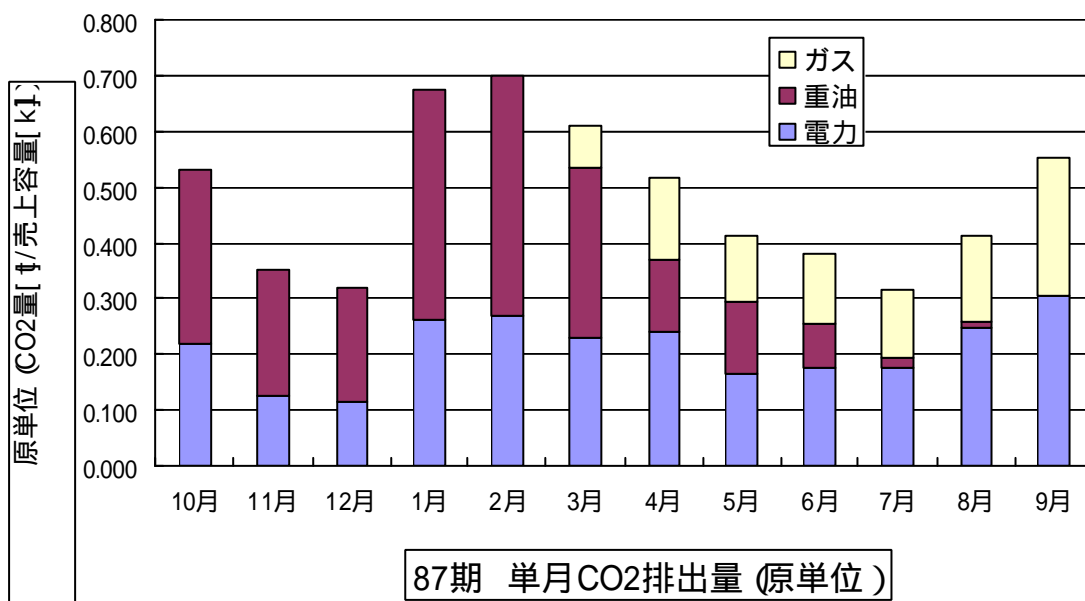
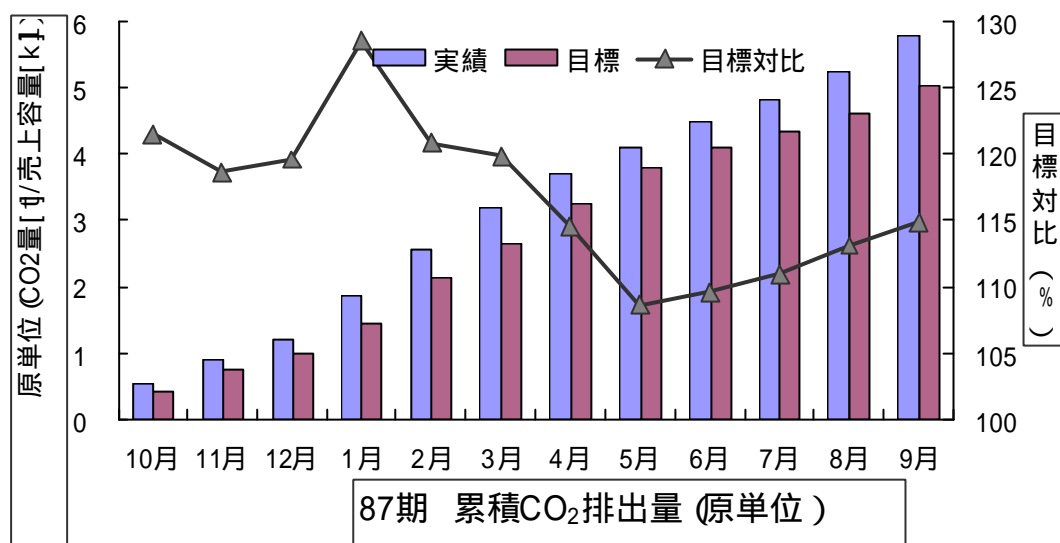
従来は電気・重油の使用量をそれぞれ削減することを目標としていましたが、京都議定書の発効を受けて87期はCO₂削減を目標としました。CO₂換算は次の通りです。

電気	0.357kg/kwh
重油	2.77kg/l
天然ガス	2.2kg/m ³

清酒の製造工程では設備等を動かすために、多くのエネルギーを使用します。電力の主な使用は 精米 - 製造 - 貯蔵 - ビン詰 の設備や冷房の運転及びタンクの温度管理等です。ポイ

ラーの運転は製造部では原料米を蒸したり、酒を火入れするときに多くの蒸気を使います。また製品部では壇の洗浄等で多くの蒸気を使用します。ボイラーの燃料は新社屋・新製品工場の竣工とともに重油から天然ガスへと切替えを行いました。

新社屋・新製品工場の建設工事及び設備の入替工事による電力の使用と、売上容量の減少が原単位を押し上げる原因となっており、目標未達成になりました。



各現場では冷房の運転やタンクの温度管理等の日常業務に省エネの意識が根付いてきており、また設備・機械等のメンテナンスを定期的に行うことで負荷のかからないような運転を心掛けています。

ボイラーでは燃焼の効率やラインの蒸気漏れ等をチェックしながら、作業終了後直ちに運転を止め、蒸気ラインを保温するといった取組みによって無駄な蒸気の削減とロスを低減するよう努めています。

これらの取組みは、**製品部工務課**を中心に各現場と協力しながら進めています。

清酒は貯蔵期間が必要なために製造量・売上容量となり、売上容量を原単位とした場合に製造各現場の省エネ対策の評価を難しくしています。よって各現場の作業に応じた原単位でのCO₂排出量と86期比を次表に示します。

87期 製造各棟のCO₂排出量

棟	CO ₂ 排出量	原単位	86期比増減(%)
精米棟	5.5	CO ₂ [kg]/精米時間[hr]	-10.7
1号蔵	807.7	CO ₂ [kg]/蒸米量[t]	-17.1
2号蔵	399.0	CO ₂ [kg]/蒸米量[t]	+0.5
調合棟	17.8	CO ₂ [kg]/売上容量[kl]	+20.3
貯蔵棟	12.7	CO ₂ [kg]/売上容量[kl]	-30.1

多くの現場で取組まれた省エネ対策が効果を表しており、電力・重油の使用量は減少してきており86期を下回りました。なお、調合棟は+20.3%と増になっていますが、これは86期前半が地震の影響によって電力使用量が大幅に低下した時期があったためです。

87期に新社屋・新製品工場が完成し、大規模な設備投資も完了しました。製品部は88期の電力・ガス使用量がその後の省エネ活動の指標となるため、数値の把握を行います。製造部は引き続き無駄の削減とロスの低減に努めていきます。

その他

有害物質などの社外流出を防止する仕組みと燃料転換及び脱フロン化

当社で使用している化学物質の中で、特に有害で大量に保管されているものについて、社外に流出しないような仕組みを作り、きちんと機能するかどうかを年1回担当者が集まってテストをしています。その際に不具合があれば改善していく方法をとっています。

86期までで有害で大量に保管しているものとしては、次のものがありました。

- ・重油...ボイラー燃料、屋外タンク
- ・アルカリ(水酸化ナトリウム)...製品を充填するピンの洗浄、屋外タンク
- ・酒及びモロミ...屋内及び屋外のタンク

重油は**製品部工務課**、アルカリ(水酸化ナトリウム)は**製品部**、酒及びモロミは**製造部**が中心となって活動していました。

87期は大規模な設備投資により環境負荷の大きい設備3点が入れ替わりました。

1点目として、ボイラー設備は全て天然ガスに切替えられ、重油がなくなったことで社外流出による環境汚染の可能性がなくなりました。更に排気ガスには窒素酸化物・硫黄酸化物が含まれていませんのでクリーンになりました。

2点目として、洗壇機を入替えたことでアルカリを大量に保有することがなくなり、社外流出による環境汚染の可能性はなくなりました。

3点目として、新社屋・新製品工場には冷媒としてフロンではなくアンモニアを使用する冷凍機を導入し、脱フロン化を開始しました。

このように設備の更新により新たな有害物質を保有することになりました。冷凍機には安全のために除外装置が設置されていますが、88期は**製品部工務課**を中心として流出防止に関する仕組みを作り、きちんと機能するかを確認していきます。

環境に関する経費について

84期と使用量及び経費の比較を行いました。原単位にしているため、量は84期を100とした各期の割合で、経費は84期と比較した金額の増減を表しています。使用量項目は電気・重油・下水道で、経費項目は電気・重油・ガス・下水道です。使用量は3項目とも年々減少しており、87期は電気3%、重油29%、下水道24%の使用量が減りました。電気と下水道は使用量減少に伴い経費も減少しているのですが、重油は大幅な値上げによって経費が増加しました(84期87期で約150%の単価上昇)。また87期は天然ガスの経費が生じたことにより、トータルで685万円の経費増加となりました。

84期比 使用量 (84期を100とした割合)

	84期	85期	86期	87期
電気	100	90	82	97
重油	100	88	91	71
下水道	100	89	83	76

84期比 経費増減 (万円)

	85期	86期	87期
電気	-590	-1,287	-218
重油	-312	+395	+446
ガス			+1,027
下水道	-250	-403	-570
計	-1,152	-1,295	+685

さいごに

新社屋 新製品工場の完成により 当社の酒造りに関する一貫した設備が整いました。この20年間にわたった精米 調合 貯蔵 製造 環境保全 ボトリング工程への設備投資は当社の目指す高品質で安全安心な酒造りを実現するとともに、より一層環境への配慮を追求したものでした。設備は一流 取組みは二流とならないように、来期以降も環境に配慮した改善を継続して進めていきます。